

	HOPPY team TSUCHIYA レースレポート 2026 AUTOBACS SUPER GT Round6 SUGO GT 300km RACE
---	---

日時	2026年9月19日（土）、20日（日）	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	スポーツランドSUGO（宮城県村田町）	■カーNo.	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	松井 孝允／洞地 遼大
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 Q1 A組4位/Q2 17位 決勝 14位

手応えが「確信」へ変わり始めた第 6 戦菅生

予選 Q1 で 4 位と大躍進、難しい路面状況乗り越えて今季初ポイントを獲得

第 5 戦鈴鹿から 4 週間のインターバルを経て迎えた第 6 戦。舞台は宮城県村田町のスポーツランド SUGO だ。高低差のあるレイアウトで、マシンバランスとドライバーの繊細なコントロールが問われる。鈴鹿では決勝で 11 ポジションアップを果たしたものの、「予選でもう少し前につけていれば」という悔しさが残った。開幕戦 27 位から少しずつ歩みを進めてきたホピ子にとって、その手応えを結果に結びつけられるかどうかが試される一戦となった。

鈴鹿翌日のタイヤテストで検証した内容を反映し、空力面にリファインを加えて迎えた菅生。さらなるステップアップを目指す週末が幕を開けた。



9 月 19 日（土）フリー走行、公式予選

土曜日の菅生は曇り空。午前のフリー走行は途中から霧雨が降る難しいコンディションとなった。その後の公式予選は完全なドライ路面でのタイムアタックが行われた。

▼フリー走行＜GT300 11 位 1 分 18 秒 717＞

セッションは午前 10 時 30 分にスタート。路面はドライ。まず松井選手がコースイン。最初に予選で使用する予定のタイヤをスクラブ。一旦ピットインしてタイヤ交換し、コースに戻る。ポンとタイムを上げると 5 周目に 1 分 18 秒 717 をマーク。出てすぐにまずまずのタイムが出るあたり、加えた変更や持ち込みのセットアップが機能しているということを感じさせる。これはトップ（61 号車



SUBARU BRZ）から 1 秒 028 差。その後ドライバーチェンジして洞地選手へ。GT では初の SUGO で走行を重ねる。1 分 19 秒 599 を記録した。その後フロントに微調整を加えながら走行を続ける。20 周を過ぎたあたりから霧雨が降り始める。26 周目にクラッシュしたマシンが出て赤旗中断。その後もうっすら濡れた路面で大きなタイムアップは見込めない中、二人合わせて 39 周を走り込んだ。上位 11 台が 1 秒余りの差にひしめく大混戦のなか、結果は GT300 クラス 11 位。ホピ子は好調な出だしを切った。

▼予選 Q1:松井孝允 A 組 4 位 1 分 17 秒 614（Q2 進出）/Q2:洞地遼大 17 位 1 分 18 秒 448

公式予選 Q1 は 15 台が出走する A 組。Q2 に進めるのは上位 9 台のみだ。ここで松井選手がステアリングを握った。コースイ

ンしてタイヤをしっかりと温め 3 周目に 1 分 18 秒 865。そして 4 周目にタイムアタック! 刻んだタイムは 1 分 17 秒 614。フリー走行から約 1 秒 1 もタイムを削り、A 組 4 位に食い込んだ。トップの 60 号車からは 0 秒 670 差、3 位の 31 号車とはわずか 0 秒 081 差という僅差の戦い。前戦鈴鹿の A 組 14 位から一気に 10 ポジションアップを果たし、堂々の Q2 進出。ピットからは松井選手の快走に拍手が沸き起こった。



続く Q2 は洞地選手が担当。意気込む洞地選手だったが、ここでは苦戦を強い



れた。コースインして同様にウォームアップし、4 周目にタイムアタック。記録したタイムは 1 分 18 秒 448 で、トップの 60 号車から 1 秒 484 差。Q2 に出走した 18 台中 17 位となった。決勝は GT300 クラス 17 番グリッドからのスタートが決まった。洞地選手に聞くと、タイヤを生かしきれなかったとのこと。武士監督は「ポテンシャルは高いタイヤだが、速く走らせるのにちょっとコツがいる難しいタイヤ。勉強になったと思う」と洞地選手を思いやった。グリッドは 17 番手ながら、ホピ子のポテンシャルアップを十分に感じさせた予選。決勝に向けてチームの士気は上がった土曜日となった。

9 月 20 日 (日) 決勝レース

▼決勝 <GT300 14 位>

朝は雨。早い時間から周辺の道路は渋滞に。年一回の SUPER GT を心待ちにしていたファンの気持ちが伝わってくる。ピットウォークの時間も空は雲に覆われ、霧雨が降り続いた。ウォームアップは松井選手がマシンをチェックすると、3 周で洞地選手にチェンジ。ハーフウェットのコースで洞地選手が多めに走行を重ね、レースへの準備を進めた。

雨は止んだが、コースは濡れている。グリッドについてスタート前のイベントを行っているおよそ 1 時間で路面がどこまで乾くのか。日差しもなく、ほぼ無風。雨に濡れた路面が徐々に乾き始めるという、タイヤ選択もペース判断も難しいコンディション。結果として午後 1 時 30 分、セーフティカー (SC) 先導でのレーススタートとの決定が下され、隊列走行からレースは幕を開けた。SC ランは 4 周に及び、午後 1 時 38 分すぎに本格的なレースが始まった。



スタートドライバーを務めたのは洞地選手。17 番グリッドから、路面の状態を見極めながら着実に前を追う。SC ランの間に「誰よりもしっかりとタイヤを温める」意識で走り、乾きかけの難しい路面でも大きなミスなく周回を重ね、23 周目には 16 位までポジションを上げる。レース中盤の 26 周目にマシンのクラッシュが発生し SC が導入された。その後 32 周目にリスタートが切られたが、25 号車はレースが再開するこのタイミングでピットイン。洞地選手から松井選手へドライバーチェンジを行い、給油、四輪タイヤ交換のフルサービスを実施し再びマシンをコースへ送り出した。

後半スティントを託された松井選手は、22 位でレースに復帰。じわじわポジションを上げ、47 周目にはついに入賞圏内の 15 位へ。レースが後半に入った 50 周あたりをすぎると、松井選手のペースが上がっていく。「マシンが軽くなってきてとても良くなった」と振り返る。前の集団との差をみるみる詰めていく。61 周目から 62 周目には FCY が入るが、集中を切らさずラップタイムをさらに短縮。レース終盤の 77 周目には 14 位にポジションアップ！そして最終周となる 79 周目にはこの日の自己ベストとなる 1 分 19 秒 840 をマークするなど、猛烈なタイムアップで前を追い続けた。そのまま 14 位でチェッカー。今季初となる選手権ポイント 2 点を獲得した。

17 番グリッドから 3 ポジションアップの 14 位。開幕戦 27 位、第 2 戦 17 位、第 4 戦 20 位、第 5 戦 16 位と歩んできた今シーズン、ついに選手権ポイントを手にした。「今年ダメならレース界を去る」と退路を断って臨んだシーズンで積み上げてきた手応えが、「確信」へと変わりつつある第 6 戦となった。「根拠に基づいてやってきた。もう落ちることはない」と武士監督。

課題として残ったのは Q2 での 17 位。予選で前に出ることができれば、決勝でさらに上を狙える確かな手応えも得られた。残る 2 戦、武士監督以下チーム一丸となり、この「確信」を確かな結果へとつなげていく。

▽土屋武士監督、松井孝允選手、洞地遼大選手の決勝レース後のコメントはこちらからご覧ください。

土屋監督 <https://youtube.com/shorts/5XSdPXnW5To>

松井選手 https://youtube.com/shorts/NPEMcs_m1l0

洞地選手 <https://youtube.com/shorts/KeZO4KuQgl4>

◎つちやエンジニアリングの YouTube チャンネル「つちやエンジニアリング_sub_ch」

広報・豊原が運営する YouTube チャンネル INFINITY MOMENT でも随時 HOPPY team TSUCHIYA の戦いを追っていく予定です。

こちらも是非、チャンネル登録のほど、よろしくお願いいたします。

URL: https://www.youtube.com/@tsuchiya_25



つちやエンジニアリング_sub_ch

レース搬入日の直前情報、レースの見どころ情報、
予選後、決勝後の監督・ドライバーのコメントなどはこちらです。

URL: <https://www.youtube.com/@infinitymoment-tv>



INFINITY MOMENT

特集動画や武士監督のロングインタビューなどはこちらです。

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・豊原